令和4年度スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト事業

（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）

成果報告書

令和５年３月

高知県文化生活スポーツ部スポーツ課

本報告書は、スポーツ庁の令和４年度障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業として、高知県が実施した令和４年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

□■　目次　■□

1　事業実施にあたっての基本的な考え方　・・・・・・・・・　1
（1）事業実施の趣旨
（2）解決すべき課題
（3）課題の解決に向けた取組

2　事業実施日程　・・・・・・・・・・　2

3　実行委員会　・・・・・・・・・・　3
（1）会議の目的
（2）検討事項
（3）開催期日・場所
（4）実行委員会名簿
（5）会議要旨

4　実践研究　・・・・・・・・　5
（1）特別支援学校と連携したスポーツ参加の「きっかけ」創出の取組み
①高知県立盲学校　・・・・・　5
②高知県立中村特別支援学校　・・・・・　6
（2）マリンスポーツを通じた障害者のスポーツ参加の拡大への取組み
①関係者検討会議　・・・・・　7
②ユニバーサルビーチ　・・・・・　8
③障害者スポーツの理解促進に向けた広報事業　・・・・　9
④ユニバーサルビーチのリモート配信　・・・・　10
⑤教員に対する障害者スポーツのノウハウの普及　・・・・　11

5　評価指標の達成状況　・・・・・・・・　12

6　成果と課題　・・・・・・・・　12

１　事業実施にあたっての基本的な考え方

（１）事業実施の趣旨

これまで本県では、特別支援学校の教職員、スポーツ推進委員、福祉施設の職員、市町村社協、市町村教育委員会、スポーツ団体関係者等の連携が広がり、県民の障害者スポーツへの理解の深まりにつながった。また、健常者と障害者が一緒に参加できる取組や障害者のスポーツ活動を支える支援体制の強化を図るとともに、リモートを活用した移動等を伴わないスポーツ教室等を実施し、新たなスポーツ参画機会の創出について一定の成果を得ることができた。

今後さらに障害者スポーツへの参加拡大を進めていくためには、スポーツへの関心が低い層に対してアプローチを行うことも含め、スポーツ参加への「きっかけ」の創出や新たなスポーツ活動の場の拡大に取り組み、障害の有無を問わず「ともに」スポーツをする機会をつくることが求められている。そうした障害者スポーツへ参加する「きっかけ」の創出と新たなスポーツ活動の推進による障害者スポーツの拡充に取組む。

（２）解決すべき課題

今後、さらなる障害者スポーツへの参加を拡大していくためには、これからスポーツへ参加をする可能性のある子供たちにスポーツ参加の「きっかけ」を創出することが重要と考えている。R３年度県民の意識調査でもトップアスリートに触れることが障害者スポーツへの関心を高めるために必要とされている。特に障害者スポーツに関わることの多い特別支援学校の子供たちがトップアスリートと直接触れ合う機会はほとんどない状況にある。

また、これまで本プロジェクトで行ってきた種目は全国障害者スポーツ大会の競技が中心であった。本県は東西に長い海岸線を持ち、海水浴等を行える場所が比較的多く、海への親しみが県民の下地としてもある地域である。こうした地域性を生かし、新たな領域でのスポーツ活動を構築し他に波及させ、障害者スポーツへの参加拡大に取り組む。他方で、新たな領域でのスポーツ活動を支える人材は少なく、人材の確保・育成の場を作る必要があるとともに、関係団体との連携づくりが課題である。

（３）課題の解決に向けた取り組み

①<u>特別支援学校と連携したスポーツ参加の「きっかけ」創出の取組み</u>

特別支援学校在校生、教員、保護者を対象として、パラリンピアンによる講演会・体験活動を実施し、障害者スポーツに親しむ機会の多い特別支援学校の子供たちがスポーツに参加する「きっかけ」を創出し、スポーツへの参加拡大を図る。

②<u>マリンスポーツを通じた障害者のスポーツ参加の拡大への取組み</u>

ユニバーサルビーチや海水浴・ヨット体験会等を通して、マリンスポーツへの障害当事者の参加を促進し、障害当事者がマリンスポーツを行ううえで、安全に充実した体験活動を支えていく人材の確保と育成を行い、さらには関係者のネットワークの構築を図る取り組みを行う。

２　事業実施日程

実施時期	実施事項		
	実行委員会	特別支援学校と連携したスポーツ参加の「きっかけ」創出の取組み	マリンスポーツを通じた障害者のスポーツ参加の拡大への取組み
7月17日			第１回検討会議 ユニバーサルビーチ①
8月10日			教員に対する障害者スポーツのノウハウの普及①
8月13日			ユニバーサルビーチ②
8月28日			ユニバーサルビーチ③ ※コロナ影響により中止
9月3日			ヨット大会 ※コロナ影響により中止
9月9日			教員に対する障害者スポーツのノウハウの普及②
10月12日			第２回検討会議
11月 ～12月		対象校へのアプローチ開始 対象校決定 講演・体験会内容を学校と協議	
12月2日		高知県立盲学校での講演・体験会	
12月3日			高知県スポーツ推進委員研修会にて取組みの発表
2月9日		高知県立中村特別支援学校での講演・体験会	
3月7日	実行委員会 （報告・次年度以降の検討）		

３　実行委員会

（１）会議の目的

県内において障害者がスポーツに関心を寄せ、継続的にスポーツ活動に参加できる機会の拡充を図るため、スポーツ関係者や福祉関係者及び教育関係者等で構成する実行委員会を開催し、本事業における取組みの成果を評価、検証し、次年度以降の取組みに関する意見交換を実施する。

（２）検討事項

①課題の把握と解決に向けた取組の検討

②実践研究の成果等の検証

（３）開催期日・場所

日時：令和５年３月７日

場所：高知市綜合体育館　第４会議室

（４）実行委員会名簿

No	所属・役職	委員氏名	当日の出欠
1	公立大学法人神戸市外国語大学准教授	常行　泰子	○
2	高知県スポーツ推進委員連絡協議会会長	島﨑　伸一	○
3	ＮＰＯ法人まほろばクラブ南国理事長	武市　光徳	○
4	ＮＰＯ法人総合クラブとさ事務局長	田井　直子	○
5	ＮＰＯ法人 YASU 海の駅クラブ事務局長	田中　愉之	○
6	高知県立盲学校教頭	正岡　佳代	×
7	高知県立中村特別支援学校教頭	小野　智子	○ ※ﾘﾓｰﾄ参加
8	一般社団法人アビリティキッズ代表理事	宇賀　安和	○
9	高知県立障害者スポーツセンター専門職員	福本　志満	○

【事務局】

高知県文化生活スポーツ部スポーツ課

チーフ（振興担当）　大塚　貴文

主査　矢野　翔大

（5）会議要旨

■事務局より事業概要と事業実施報告
①事業概要
②事業実施報告
③次年度以降の取組みについて

■実施報告に対する意見
・計画から事業実施まであまり時間がなかったが、県と何度か打ち合わせを重ね、生徒の実情に合わせた講演内容や見せ方、体験会の内容を協議することができ、生徒がとても楽しめる取組みとなった。講師はもちろん、大学生と一緒に生徒が活動する機会は今までほとんどなかったため、スポーツに関心を持つ良いきっかけとなった。
・本事業では、障害者のマリンスポーツ参加とリモートの活用を重点的に実施した。事業外ではあるが、ほかにもマリンスポーツを障害者も一緒に参加できる活動を進めている。先日、岡山県の特別支援学校から修学旅行での体験会を受け入れた際、生徒の活動とあわせ、保護者へその様子をリモート配信したところ、とても喜ばれた。このような取組みをもっと幅広に、さまざまな地域で実施できるよう、委員の皆さんとも今後連携していきたい。
・特別支援学校と連携した取組みは我々も実施しているが、市町村を跨いで生徒に集まってもらっているのが現状。広域の連携としては良い取組みと捉えているが、やはり移動手段や時間を考慮すると、もっと身近な地域で参加できる環境が必要だと思う。県として、学校だけでなく、地域のスポーツ団体とも連携を取り、身近な地域の障害者スポーツの推進にも取り組むべき。

■意見交換
・当クラブも障害者のスポーツ参加拡大の事業を行っているが、より広く受け入れようと、車いすの方やダウン症の子どもが参加できる活動を実施した。ダウン症の子どもは小さいときは歩くことも難しいが、成長するにつれ運動能力も向上し、かなり動ける子も出てくる。障害の種別や度合いに応じた対応が必要と感じている。

・スポーツ推進委員の障害者スポーツの研修を受けたり、障害者スポーツセンターと一緒に活動したりと徐々に障害者スポーツに取組む体制を整えているが、地域の障害者スポーツへの取組みはほとんど総合型地域スポーツクラブが主体となっている。推進委員が地域の障害者スポーツを主体的に実施できるよう、今後総合型地域スポーツクラブと連携して、経験を積んでいきたい。
・我々は主に発達障害の子どもを受け入れた放課後デイサービスを実施している。県や市町村、スポーツ関係者と情報を共有することで、発達障害の子どもたちのスポーツ活動の受け皿となる取組みを実施できたらと思う。

4　事業実施内容

<table>
<tr><th colspan="5">【高知県立盲学校】特別支援学校と連携したスポーツ参加の「きっかけ」創出の取組み</th></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="4">視覚障害者のスポーツ参加の「きっかけ」創出及び視覚障害スポーツの理解啓発</td></tr>
<tr><td>講師</td><td colspan="4">小松　沙季選手
井上　由布子（専属トレーナー）</td></tr>
<tr><td>連携機関等</td><td colspan="4">高知工科大学
スポーツマネジメント研究室学生７名がボランティア参加</td></tr>
<tr><td>取組写真</td><td colspan="4">

</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="4">・視覚障害スポーツの体験（ゴールボール）
・小松選手、大学生とのスポーツ体験学習
（陸上競技、サーキットトレーニング、ボルダリング、フライングディスク）
・カヌー体験
・小松選手講演「スポーツをやっていてよかったと思うこと」</td></tr>
<tr><td colspan="2">実施期日</td><td>対象者</td><td>参加人数</td><td>計</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和４年 12 月２日 10：40～15：05</td><td>小・中・高等部</td><td>22 人</td><td>22 人</td></tr>
<tr><td>成果と課題</td><td colspan="4">・ゴールボールを教員と大学生で体験、生徒が見学し、視覚障害スポーツに対する理解が深まった。
・学校と協議を重ね、様々な障害の度合いに配慮した講演・体験プログラムを実施できた
・小松選手の講演や生徒と大学生が触れ合うことで、スポーツへの意識や卒業後の将来的なスポーツ参加へのきっかけとすることができた。
・様々な性質や度合いの障害を持つ子どもたちにスポーツ参加の「きっかけ」を創出するためには、特別支援学校や、スポーツ関係団体等と連携し、子どもたち一人一人の障害の特性に応じた取組を継続するための支援体制づくりについて、引き続き検討していく必要がある。</td></tr>
</table>

【高知県立中村特別支援学校】特別支援学校と連携したスポーツ参加の「きっかけ」創出の取組み			
目的	知的障害児のスポーツ参加の「きっかけ」創出及び障害者スポーツの理解啓発		
講師	小松　沙季選手		
連携機関等	大阪体育大学 アダプテッドスポーツ部２０名がボランティア参加		
取組写真			
取組内容	・小松選手講演「パラリンピックでの体験」 ・小松選手、大学生とのスポーツ体験学習 （ボッチャ、シッティングバレー）		
実施期日	対象者	参加人数	計
令和５年２月９日９：20～11：40	中・高等部	79 人	79 人
成果と課題	・小松選手による講演、大学生による競技説明・指導を経て、生徒や保護者のスポーツに対する意欲が高まった。 ・大学生の障害者スポーツを「する」「支える」参加機会の拡充へ繋がる「きっかけ」とすることができた。 ・若者のスポーツを「する」「支える」の参加機会の拡充のため、今後も大学等と連携し、大学生が障害者スポーツの体験教室の企画・運営等に参加できるよう、継続して取組む必要がある。		

マリンスポーツを通じた障害者のスポーツ参加の拡大への取組み				
取組の名称	関係者検討会議			
目的	「こうなんユニバーサルプロジェクト」を立ち上げ、「街全体で障害者スポーツを推進する」という目標に向かい、自立継続させ発展させていく。			
参加者	社会福祉法人香南市社会福祉協議会 社会福祉法人あけぼの会 高知県立障害者スポーツセンター 一般社団法人物部川 DMO 協議会 高知県産業推進振興部地域支援員 香南市教育委員会生涯学習課 香南市商工観光課 香南市議会議員（視覚障害者） 香南市観光協会 香南市夜須町民（車いすユーザー） 高知大学ヨット部 株式会社ヤ・シィ 株式会社　縁 香南ケーブル TV NPO 法人 YASU 海の駅クラブ			
連携機関 及び 連携内容	障害者マリンスポーツの取組みと実践…大阪体育大学実技研究部、高知県スポーツコミッション、大阪成蹊大学、至誠館大学、阪南大学、鹿屋体育大学 ユニバーサルビーチの運営参加…株式会社ダイナム　野市支店、四国銀行 リモート配信と広報…NPO 法人福祉住環境ネットワーク高知			
取組内容	障害者スポーツ分野に関する現状の課題の共有と、事業に沿った協力事項の確認・成果目標の検討と検証			
実施期日		対象者	参加人数	計
令和４年７月 17 日 9：00～10：00		プロジェクトﾒﾝﾊﾞｰ	10 人	25 人
令和４年 10 月 12 日 13：00～15：00		同上	15 人	
成果と課題	・活動拠点のヤ・シィパークが「ユニバーサル公園」とすることに決定 ・各団体・施設の障害者数で評価を行おうとしていたが、既存事業・イベントにユニバーサルな取組をいれるかで評価すると評価の方法変更を行った ・一般来場者にどのように啓蒙活動をするか　を来年度は検討・実践する ・広報活動が課題であり、次年度はどのように行うかを検討する。			

マリンスポーツを通じた障害者のスポーツ参加の拡大への取組み	
取組の名称	ユニバーサルビーチ
目的	誰でも海水浴ができるビーチを地元の人・団体で継続的に設置・運営する
取組写真	
取組内容	・アクセスマットを砂浜に敷くことにより、車いす、ベビーカーなど、車輪付きの補助道具を利用する方でも、波うち際まで来ることができる ・スタッフの海水浴補助により、安全に海水浴ができる ・パラリンピアンによるパラカヌーを実際に見る

実施期日	対象者	参加人数	計
令和４年７月 17 日 10：00～15：00	一般	30 人	40 人
令和４年８月 13 日 9：00～15：00	一般	10 人	
令和４年８月 28 日 9：00～15：00	中止		

成果と課題	・車いすの子どもが、スタッフの補助により安全に海水浴を体験でき、ベビーカーの親子がアクセスマットを利用したりと、来場者が少ない中でもユニバーサルビーチとして機能した。 ・今後もユニバーサルビーチを継続して取組むことで、今回のような実績を着実に積み上げていく。

<table>
<tr><th colspan="5">マリンスポーツを通じた障害者のスポーツ参加の拡大への取組み</th></tr>
<tr><td>取組の名称</td><td colspan="4">障害者スポーツの理解促進に向けた広報事業</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="4">ユニバーサル活動の周知と協力者の探し出し</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="4">・香南ケーブル TV が活動を取材放映
・物部川 DMO が地元情報雑誌に掲載
・香南市スポーツ推進委員が県の研修会で発表
・香南市観光協会が、SNS 等で告知</td></tr>
<tr><td colspan="2">実施期日</td><td>対象者</td><td>参加人数</td><td>計</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和 4 年 7 月 17 日 10：00～15：00</td><td>地元フェスティバル来場者</td><td>2000 人</td><td rowspan="3">2045 人</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和 4 年 9 月 9 日 13：00～15：00</td><td>高知県スポーツコミッション</td><td>15 人</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和 4 年 12 月 3 日 13：00～15：00</td><td>高知県スポーツ推進委員会</td><td>30 人</td></tr>
<tr><td>成果と課題</td><td colspan="4">・ある程度の周知は行えた
・障害のある方たちは、情報を欲している。各団体も情報を発信したい。これが上手に繋がっていない。広報の手段をさらに検討が必要</td></tr>
</table>

マリンスポーツを通じた障害者のスポーツ参加の拡大への取組み	
取組の名称	ユニバーサルビーチのリモート配信
目的	誰でも、どこにいても、「みる」ことで障害者スポーツに参加できる機会の創出
取組写真	
取組内容	高知県バリアフリー観光窓口ふくねこ、一般社団法人物部川 DMO 協議会の協力により、 ・ユニバーサルビーチのリモート配信 ・既存事業の障害者ヨット大会のリモート参加と発信（コロナにより中止）

実施期日	対象者	参加人数	計
令和 4 年 7 月 17 日 10：00～15：00	観光窓口来場者	40 人	40 人
令和 4 年 9 月 3 日 9：00～12：00（中止）	大会参加者		

成果と課題	・ユニバーサルツアーの観光案内所で配信することにより、障害のある方や関係者に対し広報・周知を実施。 ・今後は、協力者を増やすことで配信先の増加を図る。 ・県外にも配信し広く参加を促すことが課題。

<table>
<tr><th colspan="5">マリンスポーツを通じた障害者のスポーツ参加の拡大への取組み</th></tr>
<tr><td>取組の名称</td><td colspan="4">教員に対する障害者スポーツのノウハウの普及</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="4">大学教員に障害者のマリンスポーツを実践してもらい、学生へフィードバックを促す</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="4">・教員に障害者マリンスポーツの実践してもらう
・障害者ヨット
・車いす SUP
・ユニバーサルビーチ</td></tr>
<tr><td colspan="2">実施期日</td><td>対象者</td><td>参加人数</td><td>計</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和 4 年 8 月 10 日 10：00〜13：00</td><td>教員・学生</td><td>20 人</td><td rowspan="2">30 人</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和 4 年 9 月 9 日 9：00〜12：00</td><td>教員</td><td>10 人</td></tr>
<tr><td>成果と課題</td><td colspan="4">・高知県スポーツコミッションの方たちも、障害者スポーツは必要で、重要であると認識してることが再確認できた
・今後、障害があっても、マリンスポーツを楽しむことは可能であると、さまざまな教育関係者に説明・実践していきたい</td></tr>
</table>

5　評価指標の達成状況

（1）特別支援学校と連携したスポーツ参加の「きっかけ」創出の取組み

①関係者検討会議

・講演会後のアンケートで、講演会の開催内容に肯定的な意見が 80%以上

→新型コロナウイルス感染症の影響により、関係者による検討会議は未実施

②特別支援学校でのパラリンピアンによる講演会・体験活動の実施

・講演会・体験会終了後のアンケートでスポーツ参加に肯定的な回答が 90%以上

→アンケートは実施できなかったが、講演会及び体験活動に参加した生徒の多くは楽しく積極的に参加していた。また、実施校の校長をはじめ教員の受け止めは肯定的な意見が多数であった。

（2）マリンスポーツを通じた障害者のスポーツ参加の拡大への取組み

①関係者検討会議

・障害当事者がマリンスポーツを体験するうえでの安全管理についての知識と経験を得た人材の確保：５名以上　→10 名

②パラリンピアンによる講演会と体験会の開催

・障害当事者の参加者数：20 名以上　→2 名

・ボランティア人材の参加者数：10 名以上　→11 名

③ユニバーサルビーチの設営と海水浴体験　→2 回

・障害当事者の参加者数：10 名以上／回　→1 名

・ボランティア人材の参加者数：10 名/回　→10 名

6　成果と課題

◇　成果

【特別支援学校と連携したスポーツ参加の「きっかけ」創出の取組み】

○視覚障害スポーツをはじめ、さまざまな障害に対応したスポーツを実践することで、関係各者において障害者スポーツに対する理解がさらに深まった。

○学校と協議を重ね、様々な障害の度合いに配慮した講演・体験プログラムを実施できた

○県外のアスリート、審判員を招致することで、県内のパラスポーツを推進するネットワークが広がり、他県と連携してパラスポーツを推進する基盤を強化することができた。

○パラリンピアンの講演や生徒と大学生が触れ合うことで、スポーツへの意識や卒業後の将来的なスポーツ参加へのきっかけとすることができた。

○大学生の障害者スポーツを「する」「支える」参加機会の拡充へ繋がる「きっかけ」とすることができた。

【マリンスポーツを通じた障害者のスポーツ参加の拡大への取組み】

○初めて海水浴を体験した車いすの子供や、ベビーカーの親子など、様々な方がビーチを楽しむことができた。

○地元のスポーツ関係者、観光関係者、企業、住民によるユニバーサルビーチ運営を実施し、街が自立して持続可能な事業とするためのきっかけとすることができた。
○ユニバーサルツアーの観光案内所で配信することにより効果的に広報・周知ができた 。

◇　今後の課題

【特別支援学校と連携したスポーツ参加の「きっかけ」創出の取組み】
○様々な性質や度合いの障害を持つ子どもたちにスポーツ参加の「きっかけ」を創出するためには、特別支援学校や、スポーツ関係団体等と連携し、子どもたち一人一人の障害の特性に応じた取組を継続するための支援体制づくりについて、引き続き検討していく必要がある。
○若者のスポーツを「する」「支える」の参加機会の拡充のため、今後も大学等と連携し、大学生が障害者スポーツの体験教室の企画・運営等に参加できるよう、継続して取組む必要がある。

【マリンスポーツを通じた障害者のスポーツ参加の拡大への取組み】
○海水浴客にユニバーサルビーチがあまり知られておらず、定着するまで継続的に実施していく必要がある。
○より多くの障害のある方に周知ができるよう、リモート配信含めた広報・情報発信のさらなる検討が必要。
○持続可能な事業とするため、ユニバーサルビーチを支える人材の発掘・育成が必要。